文保元年銘阿弥陀三尊種子板碑

［登録年月日］平成六年一一月九日
［種別］有形文化財（古文書）
［名称］文保元年銘阿弥陀三尊種子板碑
［点数］一基
［所有者等］個人
［所在地等］和泉三丁目

有形文化財（古文書）

文保元年銘阿弥陀三尊種子板碑

この板碑は、本体の高さが九八・六㎝の緑泥片岩で造られた典型的な武蔵型である。頂部の山形の角度は比較的に緩やかであり、二条線の彫りもあまり深くない。身部は枠線で長方形に囲まれ、舌状の下端部（基部・根部）は中央部よりやや厚目で粗調整となっている。枠線内の上約三分の一の位置に、異体の阿弥陀如来の種子（キリーク）と蓮座を彫り、その右下に観音菩薩（サ）左下に勢至菩薩（サク）の種子を配している。両脇侍には蓮座は付されていない。主尊に付された蓮座中央の蓮弁は円形に描かれ、左右の蓮弁各二対は対照的かつ整美に表されている。

文保元年（一三一七）一〇月の紀年銘を持つこの板碑は、昭和五二年頃、区内永福一―三四―一付近の農業用水路の中から発見されたと伝えられていて、その形状や枠線の様式・下端部の調整法等鎌倉時代後期の特色を示している。また、種子は薬研彫であるが、あまり強くなくいずれも優美であり、直線を多用した図案化の傾向が見られる。この様式も鎌倉時代後期に出てくるものである。

区内に残る鎌倉時代後期の典型的なものであり、神田川流域の中世社会・文化を知る上で貴重な遺産である。

【文化財所在地】